

## カーネーションの品種と温度

(第1報) 夜温の高低と採花量, 品質に関する試験

東礼一郎・國本忠正・後藤利幸

(大分県温泉熱利用農業研究所)

温室カーネーションの冬期夜温は、一般に11~13℃で栽培されているが、暖房費の節減のために効率的な暖房方法が望まれる。そこで发育段階別に温度設定を行い、必要な最低温度を明確にしようと試みた。本試験では、夜温の高低が収量、品質におよぼす影響について検討を行った。

## 試験方法

ガラス温室内に7.6㎡の小型鉄骨ビニルハウスを組み入れ、小型温風暖房機を用いて暖房を行った。温度設定は14℃, 11℃, 8℃, 5℃の4区とし、12月1日より夜温処理を開始した。供試品種はゆふ、スケニア、コーラル、リンダの4品種を用い、6月11日にプランター(16cm×59cm×15cm)に5株ずつ定植した。最終摘心は7月25日に行った。

## 結果および考察

生育調査は夜温設定後に発生した2番枝について行ったが、発生分枝数は各品種とも夜温間に差は認められなかった。分枝長は各品種とも高温区ほど伸長がよかった。

12月以降の月別採花量は、14℃区でゆふ、スケニア、リンダは12月から漸減したが、4月にはやや増加した。コーラルは2月が最高となった。各品種とも11℃では12

~3月はほぼ平均して採花されたが、4~5月には減少した。8℃区は各月ともほぼ平均に採花され月別間差は小さかったが、コーラルでは4月、リンダでは2月にピークがみられた。5℃区では、ゆふ、スケニアは8℃と同じ傾向を示したが、コーラル、リンダでは4月の採花数が増加した。

切花の形質については、切花長などで夜温間の差は小さかったが、茎の強さでは低温区ほど強くなる傾向がみられ、特に14℃区ではコーラルを除いて軟弱なものの割合が多くなった。ガク割れ花の発生は、ゆふ、スケニア、リンダでは14℃区が他に比べて少なかった。リンダでは5℃区で67.6%と最も多く発生したが、コーラルでは全く発生しなかった。

花色については、ゆふでは5℃で花色のむらが現われリンダでは8℃, 5℃区で淡く白っぽい色となった。スケニア、コーラルでは8℃, 5℃で変化した。花色については品質上特に問題はないと思われる。

以上の結果から、最低夜温をゆふ、スケニア、コーラルでは8℃に、リンダでは11℃に設定すれば、比較的平均して採花され、切花の品質におよぼす影響も少ないものと考えられる。

第1表 夜温の高低が切花の形質におよぼす影響(1976年)

品 種	設定夜温 ℃	切花長 cm	節 数	花 径 cm	弁 数	茎 の 強 さ (%) *			切花重** g	ガク割率 %
						I	II	III		
ゆ  ふ	14	60.8	10.9	7.1	43.1	43.3	46.7	10.0	13.3	3.8
	11	59.5	10.2	7.3	43.4	86.7	13.3	0	12.6	17.6
	8	65.6	11.2	7.2	44.0	100	0	0	14.7	20.6
	5	63.1	11.4	7.2	42.3	100	0	0	14.9	17.8
スケニア	14	75.8	11.1	8.4	61.5	33.3	40.0	26.7	23.1	8.9
	11	71.4	11.0	8.6	58.8	80.0	20.0	0	26.3	12.6
	8	73.9	11.4	8.8	57.4	96.7	3.3	0	24.5	14.4
	5	71.0	11.1	8.9	60.0	100	0	0	26.6	11.7
コーラル	14	72.8	13.8	6.6	29.6	83.3	16.7	0	14.6	0
	11	71.6	12.2	6.6	27.0	70.0	26.7	3.3	14.3	0
	8	70.0	12.2	6.3	29.2	100	0	0	14.8	0
	5	74.4	13.6	6.4	29.4	100	0	0	15.9	0
リンダ	14	68.7	11.5	8.3	53.4	26.7	36.7	36.6	24.3	9.7
	11	74.1	12.1	8.6	57.7	93.3	6.7	0	27.8	24.3
	8	76.6	11.8	9.0	55.1	90.0	10.0	0	25.5	15.1
	5	71.1	11.2	8.8	59.1	100	0	0	24.4	67.6

\* : 茎の強さは傾斜角が垂直より30°以内をI、30~45°をII、45°以上をIIIとした。

\*\* : 切花重は莖長60cm、ゆふのみ50cm。